



なした〜？

教育長のつばやき

No.91

2024, 10/28

「ウェルビーイング実践校 TOCO-TON」に応募

本年度4月1日より県教育長に就任した武田育夫氏が最初の改革推進の目玉として今年3日に上記の「TOCO-TON」を掲げ、県内校の募集を開始した。この取り組みには阿部知事も期待をしているという事なので、信州教育の転換期になるとも考えられる。

先週諏訪で行われた、長野県市町村教育委員会総会にて来賓祝辞の中で武田教育長から語られたこともこのTOCO-TONの内容が全体のほぼ8~9割だった。

TOCO-TONの名称は「自分に合った学びをとことん追求して欲しい」という願いと、先生方には「小さな歩幅で元気よく（トコトコ）歩く子供を見守り、好き！楽しい！分かった！等の心が（トン）と弾む瞬間を子どもと共にたくさん創ってもらいたい」と、そんな気持ちが込められてつけられたネーミングだそうだ。

当村で進んでいる「小中学校統合」の内容にピッタリの内容で、研修費や加配もつくと思えるので応募するつもりで考えてきた。たった2ページの提案書のみ記述なのだが、その2ページのために既に4回書き直しを行った。以前、長野合庁内の廊下で、武田教育長にお目にかかったときに「栄村は、下さんがもう進めているから大丈夫だな。」と明るくかわされてしまい、それではカリキュラム作成などに人がいないのでとても困るという話をさせてもらった。小学校同士の統合には文科省から加配がつくため、飯山の新校である城北小では2年前から加配がついて細かな計画を進めてくれているが、小中の統合には加配はつかないとのこと…小中の統合の方がカリキュラムや備品、教員の配置や教員免許状の関係で遥かに大変だと思うのだが、それが無いのだ。

今のまま行けば、小中の教頭先生に一番ご負担をお願いするしかなく、心苦しい。そんなことから、加配を期待してこの募集に応募しようと考えたわけだ。

今回この提案書には①どんな学校をつくりたいか、挑戦したいのか？②何にどのように取り組むのかを記入するようになっている。かなり具体的な内容で学校創りを書かなければならないし、そのための手立ても具体的に書かれていなくてはいけない。こんな感じ〜という抽象的でうすぼんやりした提案は、全て読まないうちに却下されるという情報も聞いた。

先週行われた、中高飯水校長会との懇親会の席上では、「栄村さんはTOCO-TON応募するんですね？」と数校の校長先生から探りを入れられた。当村の実践は既に始まっているようなものなのでアドバンテージはあると思うが、そのアドバンテージが先ほどのようにどう受け止められるかは分からない。そのために書き方や内容を変えながら訂正を加えて4回も書き直した。これなら面接形式の方がいいな〜、とも思いながら県内で最大10校までの募集になんとか入り込みたいと考えている。とはいえ、東・北・南・中信の4ブロックから最大10校ということは、各ブロック多くても3校。千曲市以北で2~3校となるとかなりのハードルだ。詰めを行いつつ、実施教委となれるよう今週中はさらに磨きをかけたいと思っている。

